

救護施設における補完的役割(補充性)について

研究目的

昨今地域福祉や在宅移行が重視され、入所型の施設の縮小がうたわれている。しかし、救護施設は、様々な施策から捕捉されずに、あるいは社会的資源の少なさから最後にたどり着く施設である。その意味で、救護施設は最後の受け皿としてその存在は重要である。

現在の社会は制度のはざまを生み出す構造となっている。そしてそれは仕方のないこととして捉えられている。その対抗思想として「共通善」の考えを概説し、社会福祉の補充性を再確認する。また、救護施設の成立から現在までの年表を作成し、救護施設がどのような形で制度からのはざまに対応してきたのかを確認する。その上で、補充性や共通善の考えを念頭にして、救護施設の役割を再認識(再構築)する。

施設の役割を再認識する中で、施設職員が救護施設で働くことの意義を肯定的に捉えることができれば良いとする視点で論じていく。

構想

社会福祉の補充性に触れながら、塚本哲のセーフティネット(網)ではなく、誰も洩らさない「お盆」としての社会福祉の役割について確認する。この塚本哲の考えは、平等主義とか「共通善」といった思想に近いと思われる。

セーフティネットはどちらかと言えばどうしても社会的排除ないしは制度のはざまを生み出してしまおうという欠点がある。あるいは包摂しようとするほど、そこから取りこぼれていく人たちがいる。このはざまを生み出す背景には最大多数の最大幸福を志向する社会がある。そこで誰もが不幸にならない社会を目指す「共通善」という考えがある。

もともと社会福祉はこぼれ落ちた人たちへの対応をしてきたものであり、誰もが幸せに生きるために、共同体としてどのようなことができるのかを考えることに社会福祉の存在意義があるのではないかと。また救護施設の運営がはじまる昭和25年から現在までの大まかな「年表」と入所者の障害種別を統計から紹介し、これまで救護施設が時代時代において制度のはざまに対応してきたことについて概説する。さらに、昨今の救護施設が対象とするホームレスや生活困窮者は無料低額宿泊所との連携ないしは対抗関係にあること。またいまだに精神障害者は精神科病院が受け皿になっていることなどを概説する。

考察では、現在救護施設は対象も求められる役割も拡散している。在宅移行や地域移行、生活困窮者自立支援への対応など...そして、救護施設を必要な人全てに行き渡るだけの社会資源とはなっておらず、その周辺でホームレスになっていた、範囲外と見なされている人たちがたくさんいる。

救護施設は限りある資源であり、全ての人たちに対応することはできない。しかし、少なくとも理念上は全ての人たちに門戸を開くべきである。共通善の原理は平たく言えば、みんながしあわせに生きるために、みんなにとって善いものを、共同体はこの共通善を実行することによって、みんなでしあわせを目指すことである。救護施設に限らず、糸賀一雄はすでに社会福祉施設の役割を社会に問うものとして肯定的に捉えていた。あれから半世紀以上経ち、ずいぶんと社会資源も整い、在宅福祉や地域福祉の思想も根付き、社会福祉のあり方もかなり変化した。しかし、その本質はあまり変わっていないと考える。

メモ

塚本の補充論の背景には仏教の平等思想があるのではないかと思ひ、いくつかの論文を読み検討したが、しっくりとこなかった。共通善についてもまだ十分に理解し切れてはいないが、現在の競争、効率優先、自己責任、自立を追い立てる政治思想への対抗として有効ではないかと思われる。

構成

研究目的, 研究方法, 倫理的配慮, 研究結果

1. 社会的排除, 包摂の限界(課題)

(杉村 2004)の概念図を提示する. その他, これまでの熊谷論文を参照する.

2. 補充性と共通善について

(塚本 1972)は, 社会福祉のような支援科学は, 近代人の抱く共栄の精神すなわち隣人に対する我々の責務...人々の幸福な生活を支援しようとするなどと言う意味で平等主義とか共通善に近いものがあると思われる. 共通善については, (新免 2020; 牛津 2020; 菊池 2017; 橋本 2014; Sandel and 鬼澤 2011; 小泉 2021; 小泉 2021), 補充性への論文は田中論文も参照する.

3. 救護施設の補充性,

年表, (全社協 2020)統計から入所者の大まかな障害種別などを紹介する. それを元に歴史的な経緯について概説する.

考察

2を受ける形で, (糸賀 1968)が施設が現実の社会の補完的な意味を持つことはやむを得ないと言うよりもむしろ良いことなのであるなどを糸口に, 3のこれまでの取り組みをまとめる形で救護施設について考察する.

Sandel, Michael J., and 忍 鬼澤. 2011. これからの「正義」の話をしよう : いまを生き延びるための哲学. 早川書房.

全社協. 2020. “保護施設の支援機能の実態把握と課題分析に関する調査研究事業.”

塚本, 哲. 1972. 社会福祉原理論. ミネルヴァ書房.

小泉, 義之. 2021. 災厄と性愛. 月曜社.

新免, 貢. 2020. “共通善の追求の試み : 「バベルの塔」を手がかりとして.” 研究論文集 (130): 1-32.

杉村, 宏. 2004. “日本における貧困と社会的排除.” 教育福祉研究 (10): 63-73.

橋本, 努. 2014. “コミュニタリアニズムのために 概念の再規定.” 相関社会科学 = Komaba studies in society (24): 123-28.

牛津, 信忠. 2020. “福祉形成における倫理性 : 共通善としての福祉からの出発.” 聖学院大学論叢 32 (2): 205-33.

糸賀, 一雄. 1968. 福祉の思想. 日本放送出版協会.

菊池, 理夫. 2017. “人間の尊厳と「共通善の政治学」.” 社会と倫理 (32): 95-108.